

「ロータリー2000」

— 新しい道をめざして —

会場が熱気につつまれた2時間であった。おそらく、地区大会ではじめての試みであろう手づくりのシンポジウム。変革の時代に向けてロータリーの新しい出発を、という強い思いから生まれた企画である。

8人の分区代理の方々が、日頃の活動の上で、具体的かつ率直に意見を交換し合い、時には会場のロータリアンをもまきこんだ熱い討議は、新千年紀への力強い第一歩となるにちがいない。

第一部

分区代理の活動を通じて

小川 カルロ・ラビッツァ R I 会長は新世紀の開幕を目前に「われわれの組織は21世紀に参入する準備が十分か」と問いかけております。ロータリアンは R I 会長の方針である堅実・信望・持続を羅針盤として、古くなった伝統を捨て、維持するものは守り、変化する勇気を持つことが大切だと思います。これを踏まえて、シンポジウムは二部構成で考えております。第一部は分区代理の活動を通して感じられたことを、第二部は新世紀のロー

コーディネーター	小川 惇	地区代表幹事
パネラー	青木 喜彦	第一分区代理
	栃内松四郎	第二分区代理
	澤藤 広己	第三分区代理
	達下 光弘	第四分区代理
	佐々木邦義	第五分区代理
	平山 新平	第六分区代理
	佐々木精志	第七分区代理
	阿部 武人	第八分区代理



タリーに望むことを、それぞれ述べていただきたいと思っております。

青木 わが国では、ロータリーは個人奉仕が原点と考え、クラブ例会において自己の鍛練を強調しております。そのために出席は80%を超えています。例会に出席し、先輩ロータリアンの背中を見ながら鍛練されていく現状です。良きロータリアンとなるには時間も努力も必要だと思います。

アメリカの平均出席率は70%未満ですが、途中で帰る、私語をする、居眠りをすることは、ほとんどないと言われております。他の会員と対話するのが楽しみであるという考えからです。鍛練の場と考えて実践しているからです。

クラブの活性化には若い人が大切であると言われていますが、時代遅れの形式や進行の仕方をやめるなど、ロータリークラブの中に変化を作っていくことが大事だと思います。しかし、一人のロータリアンとして年齢や職業にとらわれずに接し合うことが基本で、お互いに協調し、奉仕する主張を持続していくべきであります。

ロータリアンが喜んで例会に出席するには、クラブに、言いたいことが言える楽しい雰囲気と友達がいることが不可欠です。義務的に例会に出席するようでは、活性化するはずはありません。

若い人たちを育て、自分の理想をバトンタッチしていくことは、自分自身の成長に役立ちます。ロータリーは人づくりです。そのためには、家庭を基盤とし、地域に根ざし、家族や地域の人々の理解と同意が保たれる、個性的なロータリアンを作っていく努力が必要です。

栃内 ロータリーの原点である例会が効果的であるために、ロータリークラブは職業分類、一業種一人の会員制によってできています。同業種であると競争社会が起きます。ロータリーは競争のない社会、よりよい人間関係が必要でございます。例会に出席することで親睦や友情が生まれ、奉仕の心や思いやりの心が出てくると思います。そし

て生まれた奉仕の精神は、実践によって、職業道徳が生まれてくる。第1に、奉仕する喜びを感じてまいります。第2に自分の職業に対して、社会の善意、そして誇りを持つことができるわけです。例会にはすべてのことが含まれており、例会への出席そのものが、ロータリアンとして大切なことであると思います。

各クラブの取り組み

澤藤 ガバナーに従って分区内を回り、勉強させていただきました。分区内の各クラブとも、創意工夫をして例会運営をしているな、というのが率直な印象です。反面、分区内のある市では、3つか4つのクラブが四つのテストをプログラム化しておらず、新しいことに対する取り組みがなされていないような印象を持ちました。

小さな会員を抱えているクラブは、地域の活動等々で予算もかなり取られるのが実情のようです。それで、単一クラブでは負えないものを分区内で協力してやろうと、分区内の各クラブの会長さんと相談をして、プログラムを具体化した実情もございます。

私も来年度の地区の役員の一になっていますが、やはり大きいプログラムを多く抱えてくると、実行力の面で、単一クラブでは応じきれないこともあるのではないかと。このへんを皆さんと共に考えたいと思いました。

それと同時に、あまりにも複雑な組織化も、小さなクラブでは、実行という観点から見ても、応じられるのか。もう少し、クラブ独自で運営してもいいのではないかと、組織の簡略化と実行力という点で考えた次第でございます。

達下 うちの地区内は5クラブですが、回ってみて出席率が悪いという印象を受けました。ポール・ハリスがロータリーを作ったのは世界恐慌のときで、ハーバート・テラーがロータリーに四つの



コーディネーター 小川 惇地区代表幹事

テストを提供したときは、自分の会社が非常に苦しかった。両氏とも、世の中を良くしない限り自分たちも良くなれない、という思いが根底にあるような気がします。

それでは、いまロータリーは何をすべきなのか。私たちは、不景気だからこそ例会に出席して、四つのテストの中にある、真実かどうか、皆に公平か、好意と友情を深めるか、皆のためになるか、を真剣に考えて、私欲にこだわっていないか反省する、そういう態度を身につけることが大事だと思います。

今回、同行して、各クラブとも一生懸命、地域に根ざした活動をして、素晴らしいけれども、それが出席率に結びつかないのは、マンネリ化があるのではないかと思いました。そのへんを掘り起こしていけば、素晴らしいロータリー活動ができると感じました。

佐々木 私は6月末から8月8日まで、手術のため入院してしまい、交換留学生の受け入れなどの相談ができなかったのですが、会員一同が力を合わせて、全員の受け入れ態勢を整えてくれました。それで留学生一同が快適に過ごすことができ、たいへん感謝をされました。

退院後は、インターアクト年次大会の開催に向けて、クラブ員が一致団結しての作業開始。そし

て2月19日I.M.開催、どちらの作業も、壁にぶつかりながらも、なんとか開催まで漕ぎ着けました。その結果、双方とも成功裡に終了させることができ、会員一同、手を取り合って喜びを分かち合いました。

分区代理として忙しく、苦勞した反面、喜びも大きなものでした。ロータリーの理念をよく把握し、それに基づいてお互いの人格を尊重し、兄弟愛的存在で絆が結ばれているなら、小さいクラブでも大きなクラブに劣らない奉仕活動ができることを、大いに学ばせていただきました。

小川 会場にいらっしゃる花泉の遠藤智子さん、今のお話しの補足があれば。

遠藤（花泉R.C.）うちのクラブは、みんな平等なのが一番だと思います。1年間に大きな行事を、クラブ員21人で淡々とこなしました。実行まで本当に苦痛でしたが、実行したあとにすごく喜びがあるものですね。小さくて予算もないクラブですが、楽しんでおります。

「不易流行」

平山 芭蕉の俳諧用語に「不易流行」という言葉があります。論語には「温故知新」とありますが、ラビツツア会長のテーマはこれに一致するものと、私なりに思っております。堅実は「不易」に、時代の変遷に、柔軟かつ大胆に対応することは「流行」に当たるのではないか、と思うところでございます。

またポール・ハリスが「ロータリーは常に変化し、時には革命的でなければならない」といっていますが、これも同じ考え、あるいは持続性にも当たるのではないかと思っております。また、「前任者の計画やアイデアが十分に熟するまでは、自分のアイデアは実施を延期する謙虚さと度量が必要だ」ともいっております。地域や外からの信望を得ることが非常に大事だということは、申

し上げるまでもないと思います。それらは、原点に帰るということにも通じると思っております。

そういったことを考えながら、公式訪問等同道させていただきました。当分区内の各クラブは、それぞれ特徴もあり素晴らしいので、南部ガバナーの懇切丁寧なご指導も浸透したと思います。皆さんから熱心なご意見、討議をいただきました。

地域づくりの中核であるべきロータリアン

佐々木 ロータリークラブは、地域のためにお互いに助け合ってやるという考えで、各地域に生まれましたが、私自身の反省として、組織が拡大するにつれて、地域の基盤を見失いがちになっている点があります。地域のニーズに応える活動をしているだろうか。また上部機構は、各クラブの実情を考えると、自主性を尊重してやらせてもらいたいという要望は忘れていないのか。

会員増強は非常に大事ですが、ロータリークラブに入る目的が見失われていなかったか。ロータリアンに恥じない行動をするためには何をしたらいいのか。ロータリーのバッジにふさわしい行動をしているだろうか。ロータリーにふさわしい行動と誇りは、若い人を引き付ける大きな魅力になると思います。

21世紀は人類共生の時代、人権の時代と言われており、それに向けて、地域づくりの中核体としてロータリアンの果たす役割が非常に大きいだろう。そのために、ロータリー機構はどうあるべきかを改めて検討していただきたい。

阿部 ロータリーの原点といわれている例会の活性化は、各クラブ共通の悩みだと思っています。その方法について、私は3つ取り上げてみました。第1はチャンス、クラブ会員になったことをチャンスとして捉える。第2はチャレンジ、せっかく与えられたチャンスにチャレンジしなければなりません。第3はチェンジ、チャンスにはチャレン

ジしてチェンジしなければならないときもあります。会員の例会出席での卓話は自己実現のチャンスです。苦勞して作った原稿も、話し終えた快感は本人にしか味わえないもの。その積み重ねが例会の活性化になると思っております。

また、クラブの皆さんは、ロータリーの3本柱を基本に、長期的な活動計画を励行されてまいりました。いろいろなアイディアを出しながら、クラブの奉仕と親睦の精神のもとに目標に向かってきたことに対し、お礼を申し上げます。

自主性と創造性をもって

小川 澤藤さんから、地区委員会と分区代理との関係、地区との奉仕活動、各委員会、各分区との関係などについてお願いします。

澤藤 来年度から、分区代理もリーダーズプランに基づいて「ガバナー補佐」となります。そうすると、今までのように、分区代理が地区委員と同格で動いていいのか、などと迷うこともなく、ガバナー補佐を通して地区の活動がストレートに展開していくと思います。

小川 地区と分区代理という立場で感じたことはありませんか。

佐々木 各クラブとガバナーとの連携を密にするうえで、分区代理が中枢的な役割を果たすと思います。分区代理を通してお互いの分区内のクラブの実情や活動を知る、要望をまとめる、課題を各機構に流して活動してもらおう、私が考えた分区活動の果たす役割は、そういう点です。

小川 パストガバナーの方々から、分区代理がガバナー補佐となりますが、そのへんについて、ご指導いただけたら、お願いします。

菅原（宮古R.C.） まず、出席率が伸びなければ困るというお話がありました。同感でございます。出席率が伸びないのは、例会が面白くないからではないか。重荷だという気持ちが隠しきれ

ない。クラブに対する天下りの行事が年々増え、会長さんとか幹事さんはそれをこなすことで精一杯で、例会で愉快地に談論風発する気分になれない。またロータリーの組織が非常に複雑化してきている。

今の分区代理の仕事は責任が重大である。私が分区代理のときは「分区代理は責任がない、その代わり権限もない」と大笑いをして申し送りをした記憶があります。もう少し、天下りの行事を少なくしてスリム化をすれば、ロータリーがゆとりをもって社会奉仕、地元の基盤に密着した活動ができると思いますが、いかがでしょう。(拍手)

小川 今の意見に対していかがでしょう。

南部 公式訪問をしたあとに、各クラブで質疑応答の時間を取り、話し合いをしました。どこでも、ガバナー事務所からいってきたことをやっていたらクラブの活動ができない、との声が多かった。私はそこで、「ガバナーから、これをやれ、という命令ではございません。やってほしい、という奨励なんです。やるかやらないかは、クラブの判断なんです。ただガバナーとしては、RIからいってきたことをクラブに伝える義務があります。それで、クラブを鼓舞してなるべくやる方向に向ける仕事でございますので」とお話してきました。やるかやらないかは、クラブの会長、理事会のご判断です。今回もトルコ、台湾の地震、軽米の水害でクラブにお願いし、過半数のクラブが応えてくれました。パーフェクトにやれということではありませんので、それでいいと思います。

経塚(宮古東R.C.) ロータリーの組織がある以上、会員増強はしなければならない。ロータリーに勧誘したら、時間をかけてロータリアンとしての心構えを教え込む。社会的に名のある方は、なかなか人の意見には耳を傾けない。そういう方を本当のロータリアンにするために、お互いにロータリーを分かりあう場を作っていただきたい。

分区代理は、地区のロータリークラブをまとめ

て、ロータリーの事業、個々のクラブが行う事業をはっきり仕切って、指導をしていくことが大切ではないかと思えます。

竹中(種市R.C.) 南部ガバナーの姿勢は、私たちに自主性、独創性を持つことを教えているような気がしています。「不易流行」「温故知新」という名言を取り上げてのお話には、感銘を受けました。私も、そのことを吟味することがクラブの活性化や会員の増強に必要なと思います。

正直いって、ロータリークラブは縦の関係が強い感じがします。仲間の団体なので、自主性と独創性でそれをカバーしていかなければならないと思えます。

第二部

新世紀のロータリーに望むこと

深い信頼と友情を

小川 それでは、新世紀に向けてロータリーに望むことをお願いします。

青木 日本のロータリアンは精神的なことを期待し、米国のロータリアンは行動を大切に、その持続が大事と考えています。例会も、日本では休まずに出席すること、クラブのため、が先行しています。米国では、出席することは必要条件ではあるが十分条件ではない。行動するためにクラブ全体の力をまとめていくことを、より大切と考えております。日本では寄付で自分の任を果たしたと考へ、財団の規模は世界でトップクラスですが、汗をかくこと、ものを言うこともなく、他国のロータリアンに誤解されることもあります。今後は発言をすることが大事だと思います。

また、民主主義の原則である多数決で決まったら、たとえ賛成でなくても、全力で協力していくべきであると思えます。クラブの決定と地区RIと違っても、それに従っていくという大きな気持

ちが大切だと思います。

栃内 変える勇気を持つこと、変わらなければならない問題はあるはずですが、これをディスカッションしていくことが大事だと思います。

ガバナーと分区代理と一緒に公式訪問に行ったことは、前進だと思います。私も久しぶりに7クラブを訪問し、皆それぞれ苦勞をしていることが分かりました。増強は、やればできると思えます。積極的にやる姿が会員の目に映ること自体、大切だと思います。

澤藤 ロータリーの出発である親睦、職業奉仕の理念を高めることを追求していくこと、あまり会員増強等々に目くらまをたてず、和やかに会の運営を、ということに帰着すると思えます。ただロータリーと社会性の問題は、特に地域との結びつきを強めることで、ロータリーの存在感が発揮されると思えます。大きいプロジェクトに振り回されず、無理せず臨んでもらいたいです。

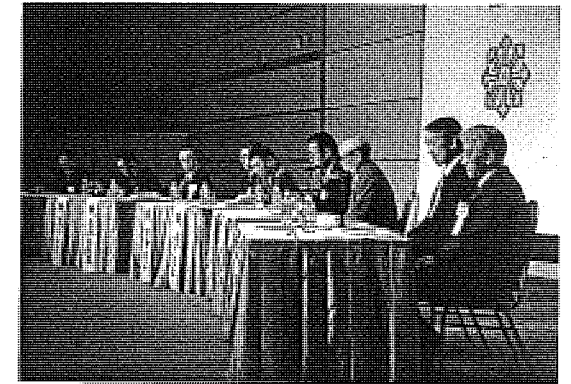
達下 皆さんは、個人がもっとよくありたいということで入会したと思えます。だけどロータリーは、人間関係を改善することにより、よい社会、平和な世界を築くために貢献をする、となっています。分区活動を行っていくうえでは、お世話をいただく人が多数いて、協力とコミュニケーションがないと苦勞します。私たちの分区内では、快く受け入れてもらえて助かりました。

これから活動をするうえでも、クラブ内の人間関係がよくないと困難だと思います。そのためには、出席によって、会員同士の深い信頼と友情を結ぶことを考慮すべきではないか、と考えます。

より社会に開かれたロータリーを目指して

佐々木 5分区で2月29日にI.M.が開催されましたが、各クラブの発表の中で印象に残ったお二人の意見を、私からの提言にしたいと思います。

地域の方と触れ合い、一緒に行動することが大



クラブの実情を知る各区分代理からの貴重な発言

切である。95年前にポール・ハリスが感じた孤独感や疎外感にはもはやないと言われているが、現在は人間と人間が、本当の意味で触れ合う機会が少なくなり、孤独にさいなまれている人間が増えている。今こそロータリーの活動が必要である。自分のクラブも会員数が減少してきているが、これはロータリー全体としていえることで、早急に手を打たなければならない。それには会員の質的強化が第一である。難しいことであるが、現代の社会でもっとも忘れられている心や思惟の問題を、前面に出しているのはロータリーだけであり、これをもっとアピールすべきである。多様に変化する社会で奉仕の理想を実践すれば、地域社会の信望を得られ、ロータリーはさらなる発展を遂げると思う。

もうひとは、ロータリー創設当時に比べ、現代は価値観の多様化、少子高齢化、過疎地における人口の減少化、奉仕活動の多様化、情報の氾濫など、創立当時に考へも及ばないような現況になっている。その中で、ロータリーの原点である奉仕の理想、いわゆる越我の奉仕を基盤とし、その変化にマイナーチェンジをしながら、個々のロータリアンが与えられた責務を、個々の責任において行動を起こすならば、20世紀におけるロータリーの発展、繁栄があるだろう、と述べました。

以上、お二人の発表の一部分を紹介し、これからのロータリーの参考になれば、と思います。

平山 今年の会長のテーマに非常に感銘しましたが、次年度以降もこの考えが持続されるのだろうか。昨日のガバナーや会長代理さんのお話しをお聞きして、やはりその精神は受け継がれていくと、力強く感じたところでございます。

それから、ロータリーはある特定の人たちの集まりだという考えから、俗化するという意味ではございませんが、もっと世の中に開かれたロータリーになっていく努力を私たちはしなくては行けないのではないか、と日頃思っております。そしてRI会長が、簡素化が大事だということをおっしゃっていることにも、共感を覚えるものであります。いずれ、新しいロータリーは、もっと開かれた、みんなに分かってもらえる努力が必要ではないか、と思っております。

佐々木 パネラーの方々が話されたことで、生かすべきところは生かしてもらいたい。それからクラブの原点を考えたときに、親睦を通して知り合いを広げ、ロータリー会員を増強しながら、奉仕の方向を教育していきたいということ、そして行動が大事であると思えます。今までも「わいわいおしゃべり会」というので、一人暮らし老人を招待して喜ばれています。それから21世紀を担う若い人づくり、特に学校関係は4週5休で、地域で生活する面が多くなると、地域が果たす役割が非常に大きくなる。そういう場合に、ロータリーが中核体となって、新世代の教育にいくらかでもプラスになる行動をしていくことが、夢であります。

ロータリーの原点は例会にあり

阿部 奉仕の理想に従い、世界の人々の助け合い、

国際交流、国際理解が不可欠である。今の若者は、いろいろな問題を抱えており、多くの人々との交流と議論を通じ、向上に役立てば、と思っております。先ほどからの問題についても、皆様方の協力がなければできないと思っております。いろいろな行事、受け入れ等につきましては、各クラブの協力を得ながら、毎年精一杯の努力をして、親しく交流をしています。

青少年の短期海外研修生の選考にあたっては、もっと幅広い交替制で派遣できないものか。まだ参加できない子供たちにも公平なチャンスを与えて、世界の勉強をさせてほしいと思えます。ロータリーを知れば、地域社会に貢献し、青少年の人づくり活動のリーダーとして、将来はロータリーにも理解を示すのではないかと思っております。

小川 8人のパネラーにご意見をいただきました。ロータリーの原点は例会にある。例会の在り方を見直して、クラブの自主性、独立性を持つことが大切ではなからうか。ロータリーの良いものは守り、変化する勇気を持って、開かれたロータリーを目指すことが大切ではなからうか、というのが皆さんの発言の趣旨だったと思えます。

ここで、青木さんに代表していただきまして、南部ガバナーに感謝の言葉を申し上げます。

青木 8分区が4分区になる過程の最後の分区代理です。こんなに忙しく大変だとは思いませんでした。しかし、南部ガバナーのご指導のもと、公式訪問に同行したり会議に参加しました。南部ガバナーの大らかな人柄に接しただけでも幸せです。あと2ヵ月、与えられた職務を全うしたいと思いますので、これからもよろしく願います。本当にありがとうございました。(拍手)